

試験区画における外来魚駆除で示された 今後の駆除のあり方

臼杵 崇広

◆背景・目的

ブルーギルやオオクチバスといった外来魚が高密度で生息する試験区画において、これら外来魚の駆除効果を検証する。

◆成果の内容・特徴

- ・ 草津市山田町地先において平成17年6月13日に図1のとおり外来魚を駆除する区画(以下、駆除区という。)と駆除しない区画(以下、非駆除区という。)を設定した。各区において同年6月21日から8月31日に図2の漁具により魚類を採捕し、非駆除区では体長測定後速やかに同区へ放流した。
- ・ 調査水域では、ブルーギル1歳以上魚が1.1~1.7尾/m²と高密度で生息していると推定されたが、駆除区ではそのほとんどを駆除することができたと考えられた。
- ・ 駆除区では、非駆除区に比べてブルーギルの当歳魚が非常に多く発生し(図3)、これら当歳魚を放置することがブルーギルの生息量にある一定のレベルで維持することにつながると考えられた。

◆成果の活用・留意点

- ・ ブルーギルの生息量を大幅に減少させるためには、現在漁業者等が実施しているブルーギル1歳以上魚を主な対象とした駆除に加えて、小型ビームトロール網や小型曳網などによりブルーギル当歳魚の駆除を積極的に行う必要がある。

